

音響芸術専門学校 学則

第1章 総則

(目的)

第1条 本校は、学校教育法に基づき、音響技術全般とそれに伴う各分野で、第一線の技術者、技能者として活躍できる人材、および音響芸術、映像芸術、ステージ・パフォーマンス、メディア・コミュニケーションに不可欠な表現者の育成を目的とする。

(名称)

第2条 本校は、音響芸術専門学校という。

(位置)

第3条 本校の位置を東京都港区西新橋3丁目24番10号に置く。

(自己点検・評価)

第4条 本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。
2 前項の点検及び評価の実施に関し、必要な事項は別に定める。

第2章 課程、学科及び修業年限、定員並びに休業日

(課程、学科、修業年限、定員)

第5条 本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は、次のとおりとする。

課程名	昼夜別	学科名	修業年数	入学定員	総定員	学級別	備考
音響技術専門課程	昼間部	音響テクニカル・アーティスト科	3年	10人	30人	3	
		録音・P A 技術科	2年	40人	80人	2	
		ライブ音響・コンサートスタッフ科	2年	30人	60人	2	
		ミュージカル&ステージスタッフ科	2年	20人	40人	2	
		音響監督・ビジュアルアート制作科	2年	20人	40人	2	
	昼間部合計			120人	250人	11	
	夜間部	夜間総合学科	2年	20人	40人	2	
		夜間部合計			20人	40人	2
総合計				140人	290人	13	

(学年及び学期の終始期)

第6条 本校の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2 学期は、次のとおりとする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第7条 本校の休業日は、次のとおりとし、休暇日程は各年度の履修計画に従う。

- (1) 土曜日及び日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - (3) 夏期休暇 8月中旬の2週間程度
 - (4) 中間休暇 前期授業終了から後期授業開始まで
 - (5) 冬期休暇 年末授業終了から年始授業開始まで
 - (6) 春期休暇 学年度授業終了から新年度授業開始まで
 - (7) 開校記念日 5月2日
- 2 教育上必要であり、かつ、やむを得ない事情があるときは、前項の規定にかかわらず、休業日に授業を行うことがある。
- 3 非常変災 その他急迫の事情があるときは、臨時に授業を行わないことがある。

第3章 教育課程、授業時数及び教職員組織

(教育課程、授業時数)

第8条 本校の教育課程及び授業時数の内訳は、別添配当表のとおりとする。

(授業時数の単位数への換算)

第9条 本校の専門課程の授業科目の授業時数を単位数に換算する場合には、原則として講義にあつては16時数をもって1単位、演習にあつては16時数をもって1単位 並びに実験、実習 及び実技にあつては30時数をもって1単位とする。

(始業及び修業の時刻)

第10条 本校の始業及び終業の時刻は、次のとおりとする。

昼間部	10時45分～16時10分 まで
夜間部	18時30分～21時 まで

(教職員組織)

第 11 条 本校に次の教職員を置く。

- (1) 学校長 1 人
- (2) 教員 12 人以上
- (3) 事務職員 3 人以上
- (4) 学校医 1 人

2 学校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。

第4章 入学、休学、退学及び卒業

(入学資格)

第 12 条 本校の入学資格は、次のとおりとする。

- (1) 高等学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における 12 年の課程を終了した者 又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成 17 年文部科学省令第 1 号)に合格した者
- (6) 修業年限が 3 年の専修学校の高等課程を修了した者
- (7) 学校教育法第 56 条第 2 項の規定により大学に入学した者であつて、専修学校において、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認めたもの
- (8) その他専修学校において、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認めた者

(入学時期)

第 13 条 本校の入学時期は、毎年 4 月とし、日時は学校長がこれを決定する。

(入学手続, 許可)

第 14 条 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書 その他の書類に必要事項を記載し、本校の定める入学検定料を添えて指定期日までに出席しなければならない。

- 2 前項の手続を終了した者に対して入学試験を行い、入学者を決定する。ただし、AO 入学試験の受験者については、AO 入学試験に合格した後に出願書類と入学検定料を納めることで入学が許可される。
- 3 本校に入学許可された者は、所定の期日までに第 28 条に定める入学金を添えて手続をとらなければならない。

(欠席)

第 15 条 傷疾病またはやむを得ない事由によって、7 日以上欠席する場合には医師の診断書、または事由書を提出して学校長の許可を受けなければならない。

(休学)

第16条 病気その他やむを得ない事由のため、2ヵ月以上欠席する場合は休学とし、休学願に必要事項を記入し、添付書類と共に保証人(保護者)連記の上、学校長に提出し許可を受けなければならない。休学期間は在学年数に算入しない。ただし休学期間は原則として1年を超えないものとする。

(復学)

第17条 前項の休学者が復学する場合には、所定の届けによって復学することができる。ただし、休学者の復学は原則として学年または学期の始めとする。

(転部・転科)

第18条 昼夜間部の転部および転科は原則として認めない。

(自主退学)

第19条 退学しようとする者は、所定の届けにその事由を記入し保証人(保護者)連記の上、学校長に提出、許可を受けなければならない。

(表彰)

第20条 成績優秀にして他の模範となる者は、表彰することがある。

(懲戒)

第21条 本学則 または別に定められる規則に違反し、もしくは学生の本分を逸脱した行為があった者は、次の懲戒処分を行う。

- 1) 譴責
- 2) 停学
- 3) 退学
- 4) 除籍

(退学・除籍)

第22条 次の各項の一つに該当する者は退学又は除籍処分を受けることがある。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者。
- (2) 正当な事由がなくて、引続き2ヵ月以上欠席した者。
- (3) 学校の秩序を乱し、その他 学生の本分に反した者。
- (4) 無届で授業料の納入を30日以上怠った者。

第5章 履修の認定・試験・卒業

(履修認定)

第23条 各教科の履修認定は、試験／レポート等に対する評価による。

実習・実験・演習などについては、平常の成績(レポート等)をもって試験の成績にかえることもある。

(試験)

第24条 試験は、学期末にこれを行うことを原則とする。

(成績評価)

第25条 成績の評価は 優・良・可・不可とし、不可は不合格とする。

(卒業)

第26条 所定の授業科目を履修し、試験に合格して、所定の単位を取得した者には、学習評価の上、卒業証書を授与する。

第27条 前条により、音響技術専門課程の昼間部学科を修了した者には「専門士」の称号を授与する。

第6章 入学金・授業料・その他

(学費)

第28条 本校が徴収する学費は、入学金、授業料、実習費、設備費及び維持費の費目とする。
ただし、休学中の学費については、維持費を納入するものとする。

2 入学前(3月31日)までに入学辞退を申し出た者には、入学金を除き、授業料等(授業料、設備費、維持費、実習費)から振込手数料を差し引いた金額を返還する。

〈音響技術専門課程〉

年次 費目	昼間部			夜間部	
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次
入学金	360,000			260,000	
授業料(前期)	400,000	400,000	※通年 200,000	240,000	240,000
設備費	100,000	100,000		80,000	80,000
維持費	140,000	140,000	100,000	100,000	100,000
実習費	100,000	200,000		70,000	140,000
授業料(後期)	400,000	400,000		240,000	240,000

第7章 附帯教育

(附帯教育)

第29条 本校の附帯教育は、次のとおりとする。

昼夜別	学科名	修業期	総定員	授業時間
昼	音響技術研究科	1年	5人	10時45分～16時10分

2 附帯教育の入学金、授業料等は、次のとおりとする。

音響技術研究科

入学金：360,000円（音響芸術専門学校、音響技術専門課程の卒業生は、入学金免除）

授業料：200,000円（1ヵ年分）

設備費：100,000円（1ヵ年分）

維持費：100,000円（1ヵ年分）

実習費：100,000円（1ヵ年分）

第8章 雑則

(施行細則)

第30条 この学則の施行に関し必要な事項は、学校長が別に定める。

附 則

この学則は令和7年4月1日から施行する。

履修の手引き

1) 学期と時限

(イ) 昼間部

学年度を2期に分ける。

前期 4月1日～9月30日まで

後期 10月1日～3月31日まで

1時限を90分とし 下記の通りの時限割とする。

時限	1	2	3
時間	10:45 }	13:00 }	14:40 }
	12:15	14:30	16:10

(ロ) 夜間部

学年度を2期に分ける。

前期 4月1日～9月30日まで

後期 10月1日～3月31日まで

1時限を45分とし 下記の通りの時限割とする。

時限	1	2	3
時間	18:30 }	19:20 }	20:15 }
	19:15	20:05	21:00

2) 進級・卒業基準

進級・卒業基準は 下記の通りとする。

- (イ) 本校生は学科ごとに定められた教科を全て履修しなければならない。
- (ロ) 卒業資格は、単位制度に基づき認定されるものとする。
- (ハ) 当該学年に1年間在籍し、所定の教育課程を履修した学生は、進級を認めるものとする。
ただし、傷病その他やむを得ない事由により長期にわたり授業を欠席した者または学業成績に懸念がある者が、自ら申し出た場合は、同一学年に留まることができる。この場合、既に修得した単位は有効とする。
- (ニ) 学生が卒業年次修了時点において所定の卒業基準を満たさない場合、2年制学科にあつては第2学年、3年制学科にあつては第3学年において留年とし、留年の期間は通算2年を限度とする。3年制学科に在籍する学生が留年し、第1学年または第2学年の科目を再履修する場合は、第2学年の学費を納入しなければならない。
- (ホ) 単位を取得しなかった科目の再履修及び再受験は、留年した年次に行わねばならない。
- (ヘ) 卒業資格は、取得単位数が昼間部2年制学科においては70単位以上、昼間部3年制学科においては100単位以上、夜間部においては45単位以上の者に与えられるものとする。
- (ト) 出席は、各時限のはじめに担当教員が各人の出欠をとり、それを確認する。正当な理由による遅刻・早退は、学級担任に申し出て承認・許可を受けなければならない。
- (チ) 欠席の著しい教科については、単位取得が認められないことがある。
- (リ) 卒業認定基準を満たさない者については、卒業判定会議において、これを判定する。

3) 試 験

(イ) 定期試験

前期および後期の各期末に定期試験を実施する。

定期試験を行う科目とその範囲は、担当教員から指示する。

なお、時間割は掲示によって発表する。

(ロ) 試験中の注意事項

- ① 試験中は監督者の指示に従うこと。
- ② 試験場への遅刻入室は所定時刻の30分までとし、それ以降は認めない。
- ③ 退出は監督者の判断により認めるが、原則30分以降とする。
ただし、この場合、真面目に試験に取り組み終了した者に限る。
- ④ 不正行為のあった者は、学則第21条に従い、罰則が科せられる。

(ハ) 追 試 験

次の理由で定期試験を受験出来なかった者を対象に、後日行われる。

- ① 病気のため受験が全く不可能な者が試験開始までにその旨を学校に連絡し、後日、診断書等を提出したとき。
- ② 3親等以内の親族が危篤・死亡のとき。
- ③ 不慮の事故、または災害で登校不可能なとき。
- ④ 就職試験
- ⑤ その他、本人の責任外でやむを得ない事情があり、学校がそれを認めたとき。

(ニ) 再 試 験

再試験は受験の結果、不合格となった者、もしくは試験を欠席した者のために行う。

(ホ) 採点基準

成績の評価は、学則 第 25 条により、優・良・可・不可の4段階とし 採点の基準を下記の通りとする。

優	80 点 ~ 100 点	良	70 点 ~ 79 点
可	60 点 ~ 69 点	不可	59 点以下

4) 卒 業

(イ) 卒業に必要な条件は次の通りとする。

- ① 2)の卒業基準を満たした者。
- ② 卒業までに必要な学費を納入してある者。

(ロ) 卒業の時期

卒業の時期は、原則として年度末である。本校では、3月15日頃が恒例となっている。ただし、留年した者が、留年した年次の前期末までに卒業単位を充足した場合は、その時点をもって卒業することとし、留年した年次の後期授業料及び後期実習費の納入は免除される。

5) 履修の方法

(イ) 授業は学年・学科毎に行うことを原則とするが、科目によっては合同して行うことがある。

(ロ) 授業は別途発表する週間時間割表によって行うが、教室番号についても週ごとにその詳細を掲示する。

(ハ) 授業時間割の変更、休講、教室の変更等は掲示によって行う。

(ニ) 提出物の期限

レポートなどの提出期限は必ず守ること。

学 科 目 配 当 表

- 1) 学科目配当表は本年度に開校される科目の配当, 担当教員を網羅したものである。
- 2) 本表には在学中に履修する全科目について記載されている。
- 3) 配当内容は授業科目, 時数と配当期, 単位数等からなる。
- 4) 本表の授業時数表記は専修学校単位基準に基づき 45 分で 1 時数とする。ただし, 昼間部は 90 分授業で実施するため, 1 限分(1 コマ)を 2 時数として記載されている。
- 5) 本配当表は, 改善その他の理由で変更することがある。

1年次 音響テクニカル・アーティスト科 【1TA】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
共通科目	基礎知識習得トレーニング	30	4	2	芹沢ほか	
	ビジネス基礎講座	8	8	1	芹沢ほか	
	音響用語	28		1	楠元ほか	
	音響概論	16		1	原田	
	電気電子の基礎	16		1	末永	
	電気音声信号		16	1	照井	
	音響機器Ⅰ	22		1	照井	
	音楽史	32		2	松山	
	舞台機構講座	8	16	1	見上・吉井	
	映像音響検定講座		16	1	永谷	
	効果音制作		20	1	石丸・吉井・金子(智)	
	動画音声制作概論	8	8	1	染谷・山田	
	演習 企画立案/シナリオ	8	8	1	見上	
	パッケージメディア研究	15	15	2	見上・塩田	
	英語	20		1	コールマン	
	演習 音響工作	24		1	下久保	
	演習 機器オペレーションⅠ	32	8	2	芹沢ほか	
	演習 機器オペレーションⅡ	12	12	1	波多腰・溝淵	
	実習 音響実技	36		1	波多腰	
	O n g e i 実技判定	10	10	1	芹沢	
演習 クリエイティブソフトウェア実技Ⅰ	28	32	4	楠元・波多腰		
照明概論	16		1	赤本		
聴能形成	8	8	1	見上		
専門科目	音場入門Ⅰ		18	1	中原	
	演習 ダビングミックス		32	2	波多腰	
	音響機器Ⅱ		16	1	楠元	
	スタジオ実技判定		16	1	芹沢ほか	
	演習 レコーディング技法		20	1	波多腰	
	P A システム	16	16	2	金子(峻)・福西ほか	
	音響機器実技判定		16	1	近藤	
	演習 ホールSRI		16	1	加藤	
	演習 ステージ課題制作		64	4	吉井・芹沢	
	電気音響	8	8	1	田村	
	ライブ制作インターンシップ		16	1	各担当	
総合・その他	研修 オリエンテーション	4			各担当	
	演習 音芸オリエンテーションⅠ	30		2	各担当	
	演習 プロモーション音源制作Ⅰ	8	8	1	見上ほか	
	企業研究	2	2		進路指導部	
	ワークガイダンス	2	4		各担当	
	企業インターンシップ		16	1	各担当	
ガイダンス	12	8		芹沢		
合計		467	449	50		

1年次 録音・PA技術科 【1RP】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
共通科目	基礎知識習得トレーニング	30	4	2	芹沢ほか	
	ビジネス基礎講座	8	8	1	芹沢ほか	
	音響用語	28		1	楠元ほか	
	音響概論	16		1	原田	
	電気電子の基礎	16		1	末永	
	電気音声信号		16	1	照井	
	音響機器Ⅰ	22		1	照井	
	音楽史	32		2	松山	
	舞台機構講座	8	16	1	見上・吉井	
	映像音響検定講座		16	1	永谷	
	効果音制作		20	1	石丸・吉井・金子(智)	
	動画音声制作概論	8	8	1	染谷・山田	
	演習企画立案/シナリオ	8	8	1	見上	
	パッケージメディア研究	15	15	2	見上・塩田	
	英語	20		1	コールマン	
	演習音響工作	24		1	下久保	
	演習機器オペレーションⅠ	32	8	2	芹沢ほか	
	演習機器オペレーションⅡ	12	12	1	波多腰・溝淵	
	実習音響実技	36		1	波多腰	
	O n g e i 実技判定	10	10	1	芹沢	
演習クリエイティブソフトウェア実技Ⅰ	28	32	4	楠元・波多腰		
照明概論	16		1	赤本		
聴能形成	8	8	1	見上		
専門科目	音場入門Ⅰ		18	1	中原	
	演習ダビングミックス		32	2	波多腰	
	音響機器Ⅱ		16	1	楠元	
	スタジオ実技判定		16	1	芹沢ほか	
	演習レコーディング技法		20	1	波多腰	
	PAシステム	16	16	2	金子(峻)・福西ほか	
	音響機器実技判定		16	1	近藤	
	演習ホールSRI		16	1	加藤	
	演習ステージ課題制作		64	4	吉井・芹沢	
	ライブ制作インターンシップ		16	1	各担当	
総合・その他	研修オリエンテーション	4			各担当	
	演習音芸オリエンテーションⅠ	30		2	各担当	
	企業研究	2	2		進路指導部	
	ワークガイダンス	2	4		各担当	
	企業インターンシップ		16	1	各担当	
	ガイダンス	12	8		芹沢	
合計		451	433	48		

1年次 音響監督・ビジュアルアート制作科 【1SV】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
共通科目	基礎知識習得トレーニング	30	4	2	芹沢ほか	
	ビジネス基礎講座	8	8	1	芹沢ほか	
	音響用語	28		1	楠元ほか	
	音響概論	16		1	原田	
	電気電子の基礎	16		1	末永	
	電気音声信号		16	1	照井	
	音響機器Ⅰ	22		1	照井	
	音楽史	32		2	松山	
	舞台機構講座	8	16	1	見上・吉井	
	映像音響検定講座		16	1	永谷	
	効果音制作		20	1	石丸・吉井・金子(智)	
	動画音声制作概論	8	8	1	染谷・山田	
	演習企画立案/シナリオ	8	8	1	見上	
	パッケージメディア研究	15	15	2	見上・塩田	
	英語	20		1	コールマン	
	演習音響工作	24		1	下久保	
	演習機器オペレーションⅠ	32	8	2	芹沢ほか	
	演習機器オペレーションⅡ	12	12	1	波多腰・溝淵	
	実習音響実技	36		1	波多腰	
	Ongei実技判定	10	10	1	芹沢	
演習クリエイティブソフトウェア実技Ⅰ	28	32	4	楠元・波多腰		
照明概論	16		1	赤本		
聴能形成	8	8	1	見上		
専門科目	演習映像音響の基礎		20	1	高橋(喜)・芹沢	
	音響機器Ⅱ		16	1	楠元	
	スタジオ実技判定		16	1	芹沢ほか	
	演習ムービープロダクション	8	84	5	日原・高橋(智)・芹沢	
	演習ダビングミックス		32	2	波多腰	
	演習アニメーション音響制作		24	1	石塚・芹沢	
	演習レコーディング技法		20	1	波多腰	
	映像音響演出		16	1	吉井	
	アニメーション研究		16	1	桑原	
	ライブ配信インターンシップ		16	1	各担当	
総合・その他	研修オリエンテーション	4			各担当	
	演習音芸オリエンテーションⅠ	30		2	各担当	
	企業研究	2	2		進路指導部	
	ワークガイダンス	2	4		各担当	
	企業インターンシップ		16	1	各担当	
	ガイダンス	12	8		芹沢	
	合計	443	463	48		

1年次 ライブ音響・コンサートスタッフ科 【1LC】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
共通科目	基礎知識習得トレーニング	30	4	2	溝淵 ほか	
	ビジネス基礎講座	8	8	1	芹沢 ほか	
	音響用語	28		1	楠元 ほか	
	音響概論	16		1	原 田	
	電気電子の基礎	16		1	末 永	
	電気音声信号		16	1	照 井	
	音響機器 I	22		1	照 井	
	音楽史	32		2	松 山	
	舞台機構講座	8	16	1	見上・吉井	
	映像音響検定講座		16	1	永 谷	
	効果音制作		20	1	石丸・吉井・金子(智)	
	動画音声制作概論	8	8	1	染谷・山田	
	演習 企画立案 / シナリオ	8	8	1	見 上	
	パッケージメディア研究	15	15	2	見上・塩田	
	英語	20		1	コールマン	
	音響工 作	16		1	下 久 保	
	演習 機器オペレーション I	36	4	2	溝淵 ほか	
	演習 機器オペレーション II	12	8	1	波多腰・溝淵	
	実習 音響実技	36		1	波 多 腰	
	O n g e i 実技判定	10	10	1	溝 淵	
演習 クリエイティブソフトウェア実技 I	28	20	3	楠元・波多腰		
照明概論	16		1	赤 本		
聴能形成	8	8	1	見 上		
専門科目	ステージワーク・スタジオワーク	12	12	1	波多腰・溝淵	
	演習 ダビングミックス		32	2	波 多 腰	
	演習 ライブ P A の基礎		34	2	溝 淵	
	演習 楽器オペレーション		16	1	溝淵 ほか	
	P A システム	16	16	2	金子(峻)・福西ほか	
	音響機器実技判定		16	1	近 藤	
	演習 ホール S R I		16	1	加 藤	
	コンサート演出研究		16	1	遠 藤	
	演習 照明実技 I		20	1	赤 本	
	演習 ステージ課題制作		64	4	吉井・溝淵	
	ライブ制作インターンシップ		16	1	各 担 当	
総合・その他	研修 オリエンテーション	4			各 担 当	
	演習 音芸オリエンテーション I	30		2	各 担 当	
	企業 研 究	2	2		進路指導部	
	ワークガイダンス	2	4		各 担 当	
	企業インターンシップ		16	1	各 担 当	
	ガイダンス	12	8		溝 淵	
	合計	459	441	49		

1年次 ミュージカル&ステージスタッフ科 【1SS】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
共通科目	基礎知識習得トレーニング	30	4	2	溝淵 ほか	
	ビジネス基礎講座	8	8	1	芹沢 ほか	
	音響用語	28		1	楠元 ほか	
	音響概論	16		1	原 田	
	電気電子の基礎	16		1	末 永	
	電気音声信号		16	1	照 井	
	音響機器Ⅰ	22		1	照 井	
	音楽史	32		2	松 山	
	舞台機構講座	8	16	1	見上・吉井	
	映像音響検定講座		16	1	永 谷	
	効果音制作		20	1	石丸・吉井・金子(智)	
	動画音声制作概論	8	8	1	染谷・山田	
	演習 企画立案/シナリオ	8	8	1	見 上	
	パッケージメディア研究	15	15	2	見上・塩田	
	英語	20		1	コールマン	
	音響工 作	16		1	下 久 保	
	演習 機器オペレーションⅠ	36	4	2	溝淵 ほか	
	演習 機器オペレーションⅡ	12	8	1	波多腰・溝淵	
	実習 音響実技	36		1	波 多 腰	
	O n g e i 実技判定	10	10	1	溝 淵	
演習 クリエイティブソフトウェア実技Ⅰ	28	20	3	楠元・波多腰		
照明概論	16		1	赤 本		
聴能形成	8	8	1	見 上		
専門科目	ステージワーク・スタジオワーク	12	12	1	波多腰・溝淵	
	演習 ダビングミックス		32	2	波 多 腰	
	演習 舞台制作の基礎		34	2	溝淵 ほか	
	P A システム	16	16	2	金子(峻)・福西ほか	
	音響機器実技判定		16	1	近 藤	
	演習 ホールSRI		16	1	加 藤	
	舞台音響演出		20	1	吉 井	
	演劇・ミュージカル研究Ⅰ		30	2	見上 ほか	
	演習 照明実技Ⅰ		20	1	赤 本	
	演習 ステージ課題制作		64	4	吉井・溝淵	
	ステージ制作インターンシップ		16	1	各 担 当	
	研修 オリエンテーション	4			各 担 当	
総合・その他	演習 音芸オリエンテーションⅠ	30		2	各 担 当	
	企業 研 究	2	2		進路指導部	
	ワークガイダンス	2	4		各 担 当	
	企業インターンシップ		16	1	各 担 当	
	ガイダンス	12	8		溝 淵	
	合計	459	459	50		

2年次 音響テクニカル・アーティスト科 【2TA】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
共通科目	エンタテインメントコンテンツ制作各論	16		1	田中・巻島 磨知・加島	
	演習 クリエイティブソフトウェア実技Ⅱ	28		1	永谷・波多腰 高橋(喜)	
	映像制作概論	16		1	港	
	映像音響検定講座Ⅱ	16		1	永谷	
専門科目	音場入門Ⅱ	34		2	中原	
	立体音響演習	32		1	中原・染谷	
	演習 マスタリング	16		1	森崎	
	演習 M A	32		2	内村	
	実習 映像音響制作	60		2	水野・高橋(喜)	
	演習 マルチトラックレコーディング	22		1	楠元	
	演習 スタジオレコーディング	16		1	塩田	
	P A システムⅡ	24		1	小松	
	演習 ホール S RⅡ	26		1	大坪	
	演習 機器オペレーションⅢ	24		1	高橋(喜)ほか	
	演習 プロモーション音源制作Ⅱ	8	8	1	見上ほか	
総合・その他	演習 音芸オリエンテーション	30		2	各担当	
	ビジネス実務	16		1	高橋(喜)	
	卒業制作	32	560	25	高橋(喜)	
	ガイダンス	8	8		高橋(喜)	
	合計	456	576	46		

2年次 録音・PA技術科 【2RP】

系列	授 業 科 目	授業時数		単位	担 当	備 考
		前期	後期			
共通科目	エンタテインメントコンテンツ制作各論	16		1	田中・巻島 磨知・加島	
	演習 クリエイティブソフトウェア実技Ⅱ	28		1	永谷・波多腰 高橋(喜)	
	映 像 制 作 概 論	16		1	港	
	映 像 音 響 検 定 講 座 Ⅱ	16		1	永 谷	
専門科目	音 場 入 門 Ⅱ	34		2	中 原	
	立 体 音 響 演 習	32		1	中原・染谷	
	演 習 マ ス タ リ ン グ	16		1	森 崎	
	演 習 M A	32		2	内 村	
	実 習 映 像 音 響 制 作	60		2	水野・高橋(喜)	
	演習 マルチトラックレコーディング	22		1	楠 元	
	演習 スタジオレコーディング	16		1	塩 田	
	P A シ ス テ ム Ⅱ	24		1	小 松	
	演 習 ホ ー ル S R Ⅱ	26		1	大 坪	
	演習 機器オペレーションⅢ	24		1	高橋(喜)ほか	
総合・その他	演習 音楽オリエンテーション	30		2	各 担 当	
	ビ ジ ネ ス 実 務	16		1	高 橋 (喜)	
	卒 業 制 作	32	560	25	高 橋 (喜)	
	ガ イ ダ ン ス	8	8		高 橋 (喜)	
	合 計	448	568	45		

2年次 音響監督・ビジュアルアート制作科 【2SV】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
共通科目	エンタテインメントコンテンツ制作各論	16		1	田中・巻島 磨知・加島	
	演習 クリエイティブソフトウェア実技Ⅱ	28		1	永谷・波多腰 高橋(喜)	
	映像制作概論	16		1	港	
	映像音響検定講座Ⅱ	16		1	永谷	
専門科目	立体音響入門	26		1	中原・染谷	
	実習 ダビングオペレーション	50	10	2	高橋(喜)	
	実習 映像音響制作	60		2	水野・高橋(喜)	
	演習 M A	32		2	内村	
	演習 プロモーション動画制作	48		3	高橋(喜)	
	演習 イベント実技	28		1	近藤	
	演習 音楽レコーディング	20		1	楠元	
	演習 機器オペレーションⅢ	24		1	高橋(喜)ほか	
総合・その他	演習 音芸オリエンテーション	30		2	各担当	
	ビジネス実務	16		1	高橋(喜)	
	卒業制作	32	560	25	高橋(喜)	
	ガイダンス	8	8		高橋(喜)	
	合計	450	578	45		

2年次 ライブ音響・コンサートスタッフ科 【2LC】

系列	授 業 科 目	授業時数		単位	担 当	備 考
		前期	後期			
共通科目	エンタテインメントコンテンツ制作各論	22		1	磨知・加島 砂川・米田	
	演習 クリエイティブソフトウェア実技Ⅱ	18		1	高橋(喜)	
	映 像 制 作 概 論	16		1	港	
	映 像 音 響 検 定 講 座 Ⅱ	16		1	永 谷	
専門科目	立 体 音 響 入 門	26		1	中原・染谷	
	演習 ショートムービー制作	40		2	高橋(喜)・波多腰	
	演習 音楽レコーディング	20		1	楠 元	
	演習 ライブ P A	36		2	加 藤	
	演習 ホール S R Ⅱ	26		1	大 坪	
	実習 ライブイベント制作	60		2	溝淵ほか	
	演習 照明実技Ⅱ	16		1	赤 本	
	演習 機器オペレーションⅢ	18		1	近藤ほか	
	ステージ制作インターンシップⅡ	16		1	各 担 当	
総合・その他	演習 音芸オリエンテーション	30		2	各 担 当	
	ビ ジ ネ ス 実 務	16		1	近藤・高橋(喜)	
	卒 業 制 作	32	560	25	近 藤	
	ガ イ ダ ン ス	8	8		近 藤	
	合 計	416	568	44		

2年次 ミュージカル&ステージスタッフ科 【2SS】

系列	授 業 科 目	授業時数		単位	担 当	備 考
		前期	後期			
共通科目	エンタテインメントコンテンツ制作各論	22		1	磨知・加島 砂川・米田	
	演習 クリエイティブソフトウェア実技Ⅱ	18		1	高橋(喜)	
	映 像 制 作 概 論	16		1	港	
	映 像 音 響 検 定 講 座 Ⅱ	16		1	永 谷	
専門科目	立 体 音 響 入 門	26		1	中原・染谷	
	演習 ショートムービー制作	40		2	高橋(喜)・波多腰	
	演習 音楽レコーディング	20		1	楠 元	
	演習 舞台制作の基礎Ⅱ	46		2	上島・春風・ほか	
	舞 台 音 響	16		1	石丸・白石	
	演劇・ミュージカル研究Ⅱ	22		1	見 上	
	演習 照明実技Ⅱ	16		1	赤 本	
	舞 台 照 明 デ ザ イ ン 演 習	16		1	高橋(登)	
	演習 機器オペレーションⅢ	18		1	近藤ほか	
	ステージ制作インターンシップ	40		1	ブイラボ ミュージカル ほか	
総合・その他	演習 音芸オリエンテーション	30		2	各 担 当	
	ビ ジ ネ ス 実 務	16		1	近藤・高橋(喜)	
	卒 業 制 作	32	560	25	近 藤	
	ガ イ ダ ン ス	8	8		近 藤	
	合 計	418	568	44		

3年次 音響テクニカル・アーティスト科 【3TA】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
専門科目	演習 ライブレコーディング	60		2	見上・楠元	
	音響 コーチング 演習	32		2	楠元	
	演習 課題レコーディング	16		1	楠元	
	実習 課題ミックスダウン	30		1	楠元	
	ポートフォリオ制作	240		8	楠元	
	研究 課題制作	60	420	16	楠元	
その他・ 総合	ガイダンス	4	4		楠元	
	合計	442	424	30		

1年次 夜間総合学科 【1E】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
専門科目	電 気 の 基 礎	15		1	末 永	
	ス テ ー ジ 制 作 論		15	1	砂 川	
	音 響 概 論		15	1	鈴木（久）	
	音 響 用 語	15		1	楠 元	
	電 気 音 声 信 号		15	1	照 井	
	企 画 立 案		15	1	見 上	
	演 習 音 響 工 作 実 技	15		1	高 橋（洸）	
	音 響 機 器	15		1	照 井	
	演 習 スタジオワーク	15	15	2	楠 元	
	機 器 オ ペ レ ー シ ョ ン	15	15	1	西尾・菅原	
	演 習 舞 台 制 作 の 基 礎		15	1	砂 川	
	O n g e i 実 技 判 定	15	18	2	菅原・波多腰	
	演 習 ラ イ ブ 音 響 実 技		15	1	杉 田	
	デ ジ タ ル メ デ ィ ア		15	1	由 雄	
	演 習 ノ ン リ ニ ア 編 集 I	9	21	2	波 多 腰	
	映 像 音 響 試 験 講 座 I		24	1	永 谷	
	演 習 舞 台 照 明 技 法		15	1	赤 本	
	演 習 収 音 技 法 I		21	1	塩 田	
	実 習 音 響 構 成		24	1	波多腰ほか	
	演 習 映 像 研 究	15		1	見 上	
	演 習 動 画 音 声 制 作 概 論	15	6	1	染 谷	
	聴 能 形 成	9	6	1	見 上	
演 習 S R (P A)	15		1	見 上		
P A 音 響 シ ス テ ム	15		1	浪 花		
ア ニ メ ー シ ョ ン 研 究		15	1	桑原ほか		
総合・その他	特 別 講 義					
	研 修 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	4			各 担 当	
	企 業 研 究	6			進路指導部	
	ワ ー ク ガ イ ダ ン ス	6			西 尾	
	ガ イ ダ ン ス				西 尾	
	合 計	244	240	28		

2年次 夜間総合学科 【2E】

系列	授業科目	授業時数		単位	担当	備考
		前期	後期			
専門科目	演習 映像音響試験講座Ⅱ	15		1	永 谷	
	演習 レコーディングシステム	15		1	塩 澤	
	演習 收音技法Ⅱ	15		1	藤 林	
	演習 ミックスダウン		15	1	波 多 腰	
	演習 マスタリング	15		1	森 崎	
	立 体 音 響 入 門		15	1	中原・染谷	
	演習 ノンリニア編集Ⅱ	30		2	永谷・波多腰 高橋(喜)	
	演習 動画制作	36		2	水 野	
	演習 ステージ制作	24		1	吉 井	
	演習 イベント企画制作	24		1	小 崎	
	演 習 M A	15		1	内 村	
	演 習 S R 実 技	30		2	杉 田	
	演 習 ビジネス実務	15		1	小 室	
総合・その他	卒 業 制 作	6	210	14	西 尾	
	就 活 ワークガイダンス	随時			進路指導部	
	ガ イ ダ ン ス				西 尾	
	合 計	240	240	30		

学生の心得

本校の学生は、将来、学校生活を通じて培った社会性、知識、技能、経験を糧に自己表現の場を広げるとともに、人間社会のよりよき発展に貢献することを目指し、在学中から、常に真摯な姿勢で日々の学習に臨まなければならない。また、自由で創造的な学校生活を送るためにも、挨拶や礼儀作法を大切にするとともに、以下の諸事項を遵守励行するものとする。

1) 日直について

よりよい学習環境を保ち、また円滑な学習活動を行うために、各学生は、定期的に日直の職務を担うものとする。日直は、教育用機材の準備など、担任から指示された諸業務に責任を持って当たり、行なった業務内容等について日直日誌に記載・報告するものとする。

2) 学生証の携帯について

本校の学生は、学内外を問わず常に学生証を携帯し、本校の教職員から学生証の提示を求められた場合には、ただちに提示しなければならない。

3) 下校・退室時の整理整頓

使用した机・椅子等の校具、機材などは必ず整理整頓すること。

4) 服装について

清潔な服装を心がけること。特に、実習時においては、安全性をも考慮し、実習内容に見合った履物、服装を選択すること。医療上、特に必要である場合を除いて教室内におけるサングラスおよび帽子の着用は禁止する。

5) 喫煙・飲酒について

学内は全面禁煙とする。また、学校周辺の指定箇所で喫煙をする場合も、近隣住民・在勤者・歩行者に対する配慮を欠かさず、マナーを守って喫煙すること。具体的には、吸殻の投げ捨てはもちろん、携帯灰皿を携帯していない学生の喫煙は、これを禁止する。未成年者の喫煙および港区条例で禁止されている歩道上での喫煙も、当然ながら禁止する。また、学校内での学生の飲酒も禁止する。

6) 通行人に対する配慮

本校は都心のオフィス街に位置するため、学校周辺は歩行者の通行量が多い。学生は、常に歩行者の通行を妨げぬよう配慮しなければならない。また 同様の観点から、道路、駅前広場等、公共の場や、校内の廊下等において地面にしゃがみこんだり、座り込んだりする行為を禁止する。

7) 施設・備品の愛護について

学校の施設・備品は、学習環境向上のためにも十分愛護し、破損・汚損しないよう注意すること。教育用機材の搬入・搬出は担当教員の指示に従って行なうこと。なお機材を破損・汚損したり、紛失したりした場合には、直ちに届け出ること。届出を怠った場合は、理由によっては弁償させることがある。また、故意による破壊行為に対しては、学則 第 21 条に基く処分がなされる。

8) 掲示について

授業時間割など、学生への通知・伝達は、原則として掲示板に発表するので、登下校時、休憩時などに毎日必ず確認すること。

9) 出席管理について

学生の出席カウントは、各教科の出席簿によって行い、出席率は別に定める学内規程に基き、厳正に管理される。

算出された出席率は成績証明書に記載され、就職活動時等の重要な資料となるので出席率の向上に努めること。

10) 欠席扱いの除外について

以下のような場合は、学内規定に則り、欠席扱いの除外措置がとられるので、担任に相談の上、必要な届出を行なうこと。

- ・ 3 親等以内の親族が死亡した場合。
- ・ 法定伝染病やインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に罹患した場合。
- ・ 入社試験や先方が日時を指定した会社訪問など、学校が認めた就職活動や実地研修を行う場合。

11) 事務局窓口取扱時間について

2F 窓口取扱時間は、原則として昼間部においては 10:30 から 16:30 までの内で授業の時間外、夜間部においては 17:00 から 21:10 とする。

12) 電話連絡について

遅刻・欠席をする際は、あらかじめ担任にその旨 電話で連絡すること。
遅刻・欠席時を含む学校への連絡は、下記の学生専用番号へ行なうこと。

学 生 専 用 番 号 03-6435-9126

電話の取次ぎ時間は 10:30 以降とする。また、学生個々への呼び出しは一切行わないので、家族、友人に周知すること。緊急時には、担任を通じての伝言のみ対応する。

13) 携帯電話・スマートフォン等の使用

授業中、試験中の携帯電話・スマートフォン等の使用は、教員の許可がない限り禁止する。

14) その他の注意事項

- (イ) 学校生活においては、集団生活のマナーを守り、他人に迷惑をかける事のないよう心がけること。特に授業中の私語は厳に慎むこと。円滑な授業進行が妨げられるような場合には、退室を命じることもある。
- (ロ) 政治的中立、教育の自主性を守るために、学内における 一切の政治・宗教活動を禁止する。
- (ハ) 学校の許可なしに、教室や実習室などの学校施設を利用することはできない。
- (ニ) ビラ、チラシ、ポスター等を学校の許可なく掲示、配布、設置することはできない。
- (ホ) 学内において、行事等を計画、実施しようとするときは、担任を通じて学校長の許可承認を得なければならない。
- (ヘ) 自転車、オートバイ、自動車による通学は原則としてこれを禁止する。
- (ト) 学生は校内美化に努め、壁や施設等への落書き、汚損、破損等をしてはならない。また、ゴミや新聞雑誌類の投げ捨てを禁止する。

学校関係者（常勤及び非常勤教職員、学校法人理事及び評議員）、
インターンシップやアルバイト先関係者、
就職活動対象先関係者との接触・交流について

1. 学生は、親、保護者を除く学校関係者（常勤／非常勤教職員、インターンシップやアルバイト先の関係者、就職活動先の関係者等）との間で、原則として以下に該当するような交流をしてはならない。
 - ① 学校施設外における一対一での非公式な面会、面談
 - ② 公式な面会、面談の名目で行われる実質的にはプライベートな一対一での面会、面談
 - ③ 学校の教育活動や就職活動、業務に関係が希薄と思われるプライベートなやり取りをLINE、DM、メール、電話等の通信手段を用いて一対一で行うこと
 - ④ 学校の教育活動や就職活動、業務に関係があるように装いながら行われる実質的にはプライベートなやり取りをLINE、DM、メール、電話等の通信手段を用いて一対一で行うこと
2. 当校の学生が、1の各項のいずれかに該当する可能性があるやり取りを学校関係者から求められた際には、そうしたやり取りが学校の規則で禁止されていることを先方に伝えること。

先方に対してそれを伝えにくい事情がある場合、もしくはこうした交流が禁止されていることを伝えてもなお、先方が1に該当する接触・交流を求めてきた際には、担任、カウンセリング担当教員、学校長を含む専任教職員など、学生自身が相談しやすい学内教職員に報告相談すること。

証明書，届出書類について

1) 各証明書交付について

次の各項にある各証明書の交付を希望する者は、事務局にある申込用紙に必要事項を記入のうえ申し込むこと。窓口取扱時間内に申請が受理された各証明書の交付は原則として申込みの翌登校日とする。

ただし、緊急の場合に事務処理が可能であり、16時までの申請であれば即日交付を行う。

なお、各証明書の手数料は通学証明書を除き各1通につき、500円とするが即日交付の手数料は1,000円とする。

① 通学証明書

本人以外の行使は厳禁とする。

② 在学証明書

在学者に対して随時交付する。

③ 成績証明書

交付時点で成績評価の終了している分を交付する。

④ 卒業見込証明書

2年制学科は2年次後期より、3年制学科は3年次前期より随時交付する。ただし、申請時点の成績・出席が不良と判断された場合は交付を中止することがある。

⑤ 卒業証明書

卒業証書を授与した日の翌日より随時交付する。

※ 学生証の再発行

学生証の再発行申込みがあった場合は、再発行希望理由を確認した上で手数料2,000円をその都度徴収し、再発行する。申込者本人が即日発行を希望し、その対応が事務的に可能な場合には、即日発行手数料1,000円を加えて徴収し、即日発行する。

2) 各届出書類提出について

次の各項にある届出書類の提出については、遅滞なく速やかに届出なければならない。

① 住所変更届

住所を変更した場合は、必ず所定の用紙により担任に届けなければならない。

② 追試験・再試験申請書

履修の手引き「追試験」「再試験」の項にある理由に該当するために試験を実施する場合は、所定の用紙に必要事項を記入し必要書類を添付の上、試験前日までに各クラス担任教員へ提出のこと。

なお、1科目につき追試験、再試験とも2,000円の受験料を添えること。

③ 特別補講受講申込書

学生が重要な授業を欠席するなどした場合、特別授業を実施することがある。

その場合に受講希望者は、特別補講申込書に受講料3,000円を添えて指定された期日までに窓口で申し込むこと。

④ 欠席届

欠席者は欠席した期間および理由を明記した欠席届を提出すること。

学則第15条に該当する場合は、診断書等を添付すること。

⑤ 休学願

学則第16条に該当する場合は、休学の期間、理由を明記し、その理由を証明する書類(医師の診断書等)を添付して、クラス担任まで届け出て学校長の許可を受けること。

⑥ 復学願

学則第17条にある通り、休学者が復学を希望する場合は復学願を提出すること。

復学を希望する日を明記し、クラス担任まで届け出て学校長の許可を受けること。

⑦ 留年願

進級時に留年を希望する学生は、所定の期日までに留年願を提出しなければならない。留年願には、その事由を具体的に記載し、クラス担任を経由して学校長の許可を受けること。

⑧ 退学願

退学しようとする場合は、学則第19条の規定に従って届出すること。

退学希望の日および理由を明記し、学生証を添付して各クラス担任まで届出、学校長の許可を受けること。

2025年度 スケジュール

前 期	後 期
4月 1日 (火) 前期開始	10月 1日 (水) 後期開始
4日 (金) 入学式	13日 (月) スポーツの日 (休日)
7日 (月) 教科書販売(1年生)	11月 3日 (月) 文化の日 (休日)
8日 (火) 前期授業開始	24日 (月) 振替休日
29日 (火) 昭和の日 (休日)	12月 24日 (水) 冬期休暇開始
5月 2日 (金) 開校記念日	〈2026年〉
5日 (月) こどもの日 (休日)	1月 6日 (火) 冬期休暇終了
6日 (火) 振替休日	1月 12日 (月) 成人の日 (休日)
7月 21日 (月) 海の日 (休日)	2月 11日 (水) 建国記念の日 (休日)
8月 11日 (月) 山の日 (休日)	2月 23日 (月) 天皇誕生日 (休日)
夏期休暇開始	3月 中旬 卒業者決定
22日 (金) 夏期休暇終了	〃 終業式
9月 15日 (月) 敬老の日 (休日)	〃 卒業式
23日 (火) 秋分の日 (休日)	20日 (金) 春分の日 (休日)
30日 (火) 前期終了	31日 (火) 後期終了